

COCO NEWS

～社会福祉法人等の地域における公益的な取組情報～

Vol.4
2025.1.1

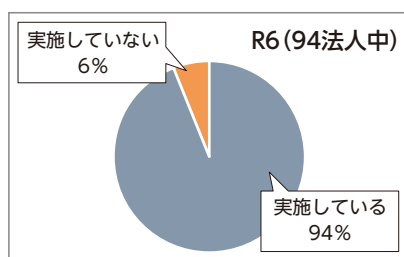
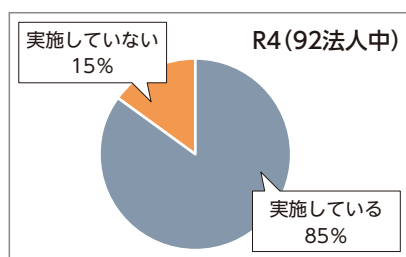
社会福祉法人の地域における公益的な取組の実施状況について（R4→R6 比較）

仙台市社会福祉協議会では、令和4年度より市内社会福祉法人が行う公益的な取組を支援するため、研修、広報、地域とのつなぎ等に取り組んでまいりました。令和6年度で3年目を迎えた中で、この2年間の推移と現状について、現況報告書の内容に基づき、実施状況をまとめました。

※現況報告書

社会福祉法人は、社会福祉法第59条の規定に基づく届出書類のうち、社会福祉法第59条の2第1項第3号で規定されたもの（現況報告書及び計算書類）について、インターネットの利用により公表しなければなりません。各社会福祉法人から所轄庁に対し届出された現況報告書及び計算書類等の情報については、下記のとおり独立行政法人福祉医療機構が運営する「社会福祉法人の現況報告書等情報検索サイト」で公表されています。

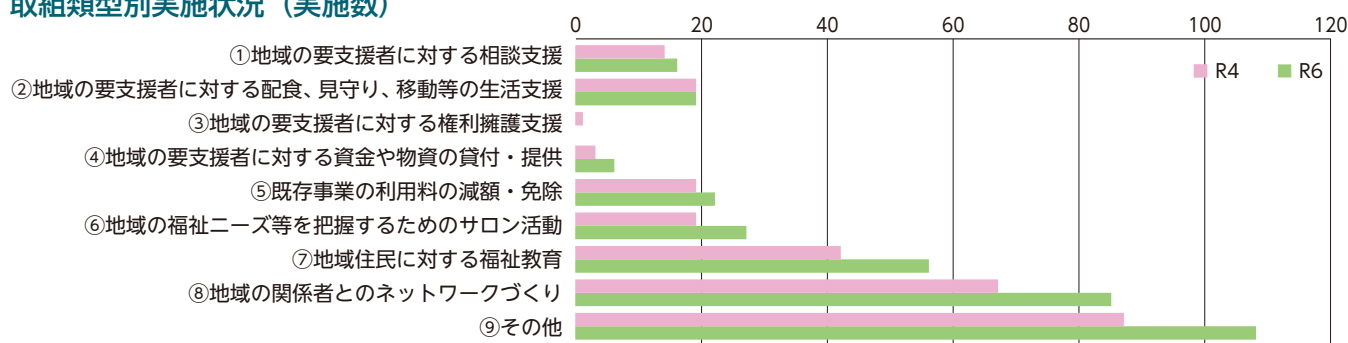
■ 社会福祉法人の現況報告書における「地域における公益的な取組」の実施状況



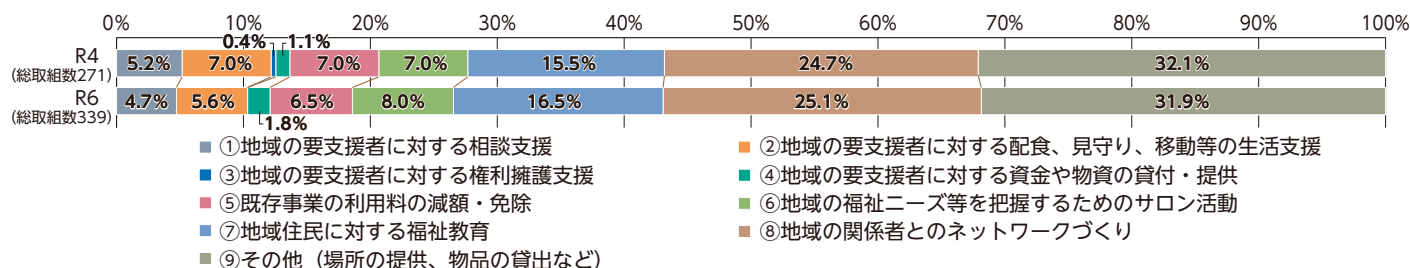
※現況報告書の「地域における公益的な取組」欄に記載がある法人を「実施している」、記載がない法人を「実施していない」としています。

2年で9ポイント上昇しており、現在では、ほとんどの法人が「地域における公益的な取組」を行っている」と報告されています。

■ 取組類型別実施状況（実施数）



■ 取組類型別実施状況（割合）



市内法人全体では、2年間で約60の取組が増えています。最も多いのが、「⑧地域の関係者とのネットワークづくり」、次いで「⑦地域住民に対する福祉教育」「⑥地域の福祉ニーズ等を把握するためのサロン活動」の順と多くなっており、割合としても増えていることが分かります。

「ともに生き、支えあうまち」の推進に向けて、
引き続き、地域における公益的な取組を推進していきましょう！



次ページからは、社会福祉法人の取組を紹介します。

事例紹介

人によって、人の一生を支える福祉をつくる 社会福祉法人 幸生会



幸生会では、仙台市内に多くの事業所を有しており、施設ごとに地域社会との関係性をつくりながら、人の安心した生活の支援を行っています。
今号では、取組の1つである「かむり塾」についてご紹介します。

さまざまな困難に対して、 励まし合いながら一緒に歩む存在に



私たち幸生会は、“分かち合いと励ましー今、家族愛に生きる”を理念に、高齢者、障害者、児童の各福祉分野にわたる事業を展開している法人です。

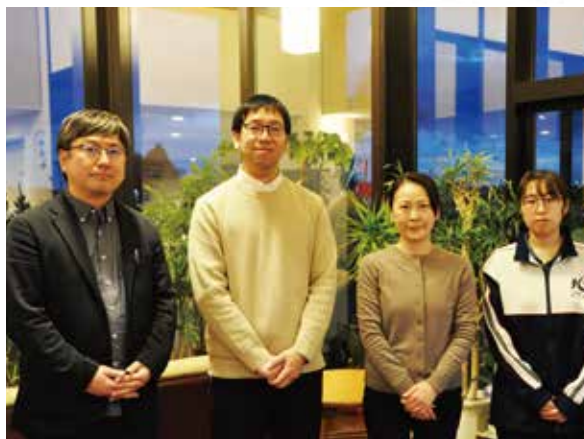
この法人理念は、私自身方向性に悩んだ際にこの理念をよく思い出します。ただテーマが大きく、日々の業務に追われて先が見えない時があります。

ある時理事長から施設長が集まる会議の新しい名前を考えてくれと指示があり、悩んだ結果。“明日のための会議”と命名しました。遠い先のことは見えなくても明日の幸生会のことなら考えられるのではないだろうかという思いからです。

「地域における公益的な取組」、「地域貢献」という言葉も同じくテーマが大きく、地域のために立派なことをやらなければならないと思って、立ち止まってしまいそうになるのではないのでしょうか。しかし、地域の困りごとに対して、職員だけではなく、地域住民の皆さんと一緒に考えて考えることができれば、取組が進んでいくのではないかと感じています。

また、職員がのびのびと取り組むために、失敗を恐れずに法人が挑戦を後押しすることも大切です。「まずはやってみる」ができる雰囲気をつくり、小さなことからでもよいので背伸びをせずに始めること、そしてそれを続けること、それが大切なのではないかと考えています。

(社会福祉法人幸生会 理事 今井 豪)



- 法人名／社会福祉法人 幸生会
- 本部所在地／宮城県仙台市青葉区栗生 1 丁目 25-1
- 連絡先／TEL：022-391-6658
- ホームページ／<https://f-kouseikai.or.jp/>
法人の取組みについては HP でも紹介しています。



地域の子育てに施設も参加



■「かむり塾」を始めたきっかけについて教えてください。



この土地にはもともと大きな工場があり、地域の繁栄を支える場所となっていました。工場がなくなって以降、高齢化が進んでいました。理事長が地元出身ということもあって、社会福祉法人として何かできないかという考えがあり、地域を支えてきた皆さんのために、高齢者施設をつくろうとなりました。その考えに賛同した地域の皆さんから2,700を超える署名をいただき、地域の力によって誕生したのが泉クラシックです。

そのような経過から、「施設建設だけではなく、何か地域貢献を」とも考えていました。住民の声を聞く中で、この地域は学習塾やバスの便数といった社会資源が少なく、また、共働き家庭も増えていて、自宅で1人で過ごす子どもたちも多くなっているという地域課題が見えてきました。そこで、子どもたちのために何かできないかと思って考えたのが、「かむり塾」です。



署名は今も大切に保管され、施設の入口に展示されています。

■塾の運営はどのように行っているのですか？

地域の方々がボランティアで先生として関わってくださっています。特に塾長の佐々木さんは、立ち上げ段階から相談させていただき、ずっとご協力いただいています。

当初は職員が教えることも考えたのですが、検討する中で、「先生は地域住民に協力いただくのが良いのでは」という意見があり、教育アドバイザーに相談して佐々木さん（塾長）をご紹介いただきました。そして、塾長のつながりで、先生として協力していただける方が増えていきました。

■「かむり塾」

毎週火曜日と木曜日の放課後、特別養護老人ホーム 泉クラシックの会議室で行われている放課後学習サポート活動。根白石小、福岡小の3年生～6年生を対象に募集し、各曜日10名程の塾生が参加しています。

地域の方がボランティアで教えており、現在5名の先生がいます。塾は2コマ制になっており、学校の宿題を行った後、休憩をはさんで、授業を行ったり、時には課外活動やレクリエーションなどの余暇活動も行っています。

職員は資料のコピーや子どもたちの送迎、活動の補助を行っています。また、取組に係る経費は法人が負担しています。



塾は無料送迎付き。施設の送迎車輛を活用し、小学校まで迎えに行き、終了後はそれぞれの自宅まで送り届けます。

■取組を行ってよかったと思える部分はありますか。

小学校3年生から参加しているので、継続して通っている子は、成長を感じることができます。小学校を卒業してしまうと「かむり塾」も卒業になりますが、中学校の先生から近況を聞いたりして、うれしくなったりします。地域の子育てに施設も参加できているような感じです。

学習だけではなく、人間的な成長といった面にも目を向けているのですが、それは福祉施設ならではの面だと思います。

■今後こういった形で地域との関わりを続けていきたいですか。



「かむり塾」は、塾長はじめ先生となってくださっている地域の方の活躍があってこそ続けられていると思います。職員が全て行っても、ここまで続けて来られませんでした。

法人内の他の事業所においても地域との関係性は意識しています。小さなことからでいいので、職員だけではなく、地域の皆さんと一緒に何かやってみる。うまくいかなければ、やり方を変えてもいい、でも、関わりを続けていく、ということが大事かなと思います。

..... (取材協力)

法人事務所 理事 今井 豪 氏
特別養護老人ホーム 泉クラシック 施設長 山田 裕樹 氏
生活相談員 佐藤 千優 氏
「かむり塾」塾長 佐々木 孝 氏

「かむり塾」に関わる地域の方の

声



塾長 佐々木 孝さん



私は根白石地域に住んでいて、もともと小学校教員をしていました。

退職後、児童館にいたこともあるのですが、当時は受入れが3年生までと決まっていた、高学年の児童は利用できませんでした。放課後一人で留守番をしている子どもも少なくないと聞いて子ども達の居場所の必要性に共感し、施設側から塾長の話をいただいて、「やりましょう」となりました。

実施にあたっては、あまり窮屈にならないように、というところを条件にしました。学校は学習指導要領に沿って、ある程度のレベルまでという職務があり、いろいろな課題に対して子どもたちは精一杯努力しなければならない。だからこそ、「かむり塾」は子どもたちの気持ちを楽にさせる場でありたいと思います。

例えば、保護者さんからは、「この子は算数苦手だからもっと教えてほしい」などの声もあります。「確かにそうだな」とも思うこともありますが(笑)、学力向上だけではなく、学校とは違う居場所として、のびのび過ごせるようにしたいと思っています。そのため、なるべく負担にならないように学校ではできないお楽しみ問題のようなものや余暇活動を織り交ぜたりしています。

こういった社会福祉施設が地域にあるのは、ありがたいことだと思います。泉クラシックは高齢者施設ですが、子どもにも目を向けてくれている。地域のお父さん、お母さんにとっても、助かる取組だと思います。

根白石地域は少子高齢化で、家々の間隔も遠いので、放課後地域で過ごすということが難しく、帰れば家で一人になります。でも、ここに来れば、私たちや友達といった地域の人と時間と場を共有できる。

こういった貴重な場を続けていくために、私たちも力を差し伸べていきたいと思っています。

- ① 先生は皆さん元教員の方。経験を活かし、一人ひとりに応じた対応をしています。
- ② この日はお好み焼きづくりを行いました。余暇活動中は先生もフラットな目線で子どもたちと関わっています。
- ③ 塾の合間を縫って、その日の様子を連絡帳に記入します。親御さんとのコミュニケーションツールとなっています。

